

## 1. 港湾分科会の進め方に関して、分科会の多様な機能の明確化

### ①「オーソリゼーション型」の議題

分科会による「決定」が制度的に要請されている事項。(ex.個別の港湾計画の改訂)

### ②「答申型」の議題

諮問→答申のパターン。与えられた「課題」に対して「答え」が要請される。十分な本格的議論を行い「答え」を出すタイプ。(ex.港湾分野の海外展開方策)

### ③「建議型」の議題

十分な本格的な議論にもとづいて、自発的に「課題」を設定しなおかつ「答え」を出し提案するタイプ。(ex.港湾政策の中長期的方向性)

・相対的に見て、①「オーソリゼーション型」議題とともに、②「答申型議題」や③「建議型」議題を充実すべき。

## 2. 港湾政策に関連して

### 1) 国際輸送分野の第三の戦略策定

- ・①国際コンテナ、②国際バルクに関する戦略展開に加えて、第三の国際領域の充実が必要。すなわち、比較的短距離の③国際 RORO 輸送(フェリー含む)にも重点をおくべきでは。
- ・北海・バルト海・地中海などとの比較検討→RORO のポテンシャル評価
- ・展開のための制度的・技術的制約課題の抽出→対策と戦略の策定

### 2) 港湾サービスの「アベイラビリティ評価」の導入検討

- ・(参考) 道路のアベイラビリティ評価:「東高西低」、「高速はすぐ止まる」
- ・巨大災害ばかりでなく頻発する「気象災害への港湾サービスの信頼性評価」
- ・防波堤充実、ダブル港湾(ex.伊豆大島)、空港との関係(対空リカバリーは航空が有利)